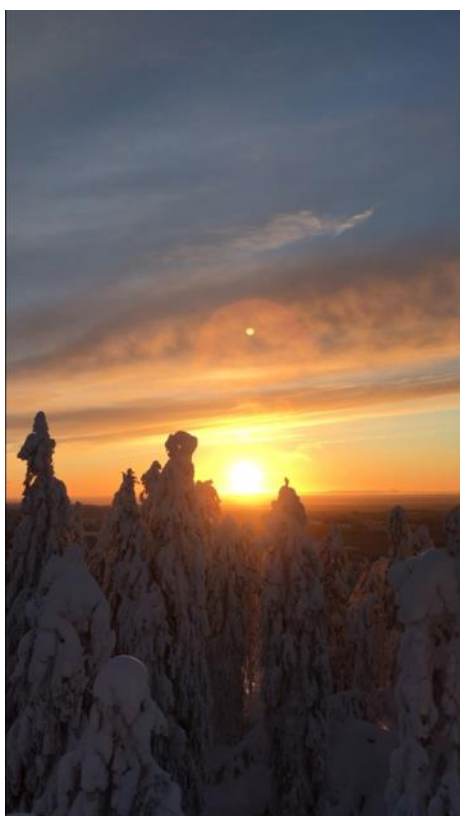
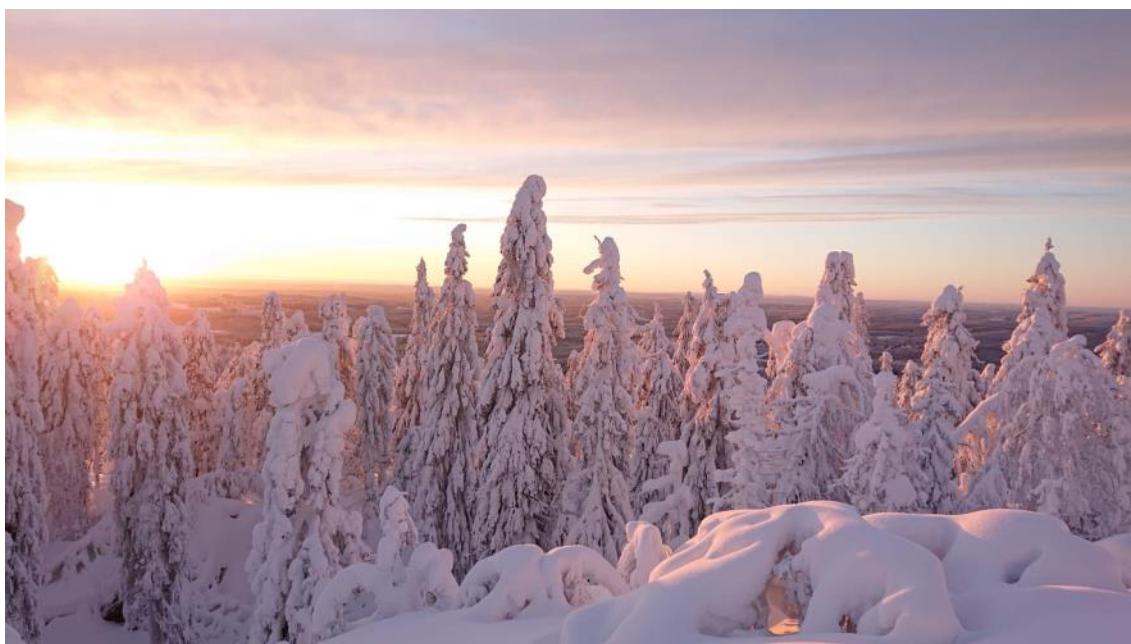


海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2019/02/01 ～2019/02/28)



Koli national park にて。長年にわたって多くのフィンランドの芸術家や写真家を魅了してきた、フィンランドで最も有名な公園の一つです。幸運にも晴天に恵まれ、夢のような絶景を目の当たりにすることができました。

雪の重さでたゆんだ木々や、傘を閉じたようにたたずむ巨木の世界は“静”の空間。聞こえるのは自分の息遣い、動くものは自分が吐き出す息だけ。しなった木々の上にさらに雪が深くつもり、丸みを帯びた不思議なその姿があちらこちらにふと現れる景色は、見る人をまるで美術館にいるような気分させます。

視線をあげればそこに見えるのは、地平線まで張った白いテーブルのような湖と、無数に点々と続く木々。異世界を垣間見たような、興奮と恐怖、好奇心が胸の中にせりあがります。

1. 生活の状況

今月は旅行の一か月でした。授業スケジュールにぽっかり穴が空いたのもあり、2月後半からヨーロッパ旅行に行ってきました。ラトビアで乗り継ぎのついでにリガを観光し、スイスのジュネーヴ、フランスのリヨンと友人と散策しました。スイスはどこか日本に雰囲気似ており、山を久しぶりに見ることができました。フランスのリヨンでは友人とともに初めて couchsurfing を試し、新たな出会いもありました。約12日間の一人旅はこの後からです。スイスにバスで戻り、ローザンヌに一人で降り立ったときは心細さでいっぱいだったのを覚えています。英語が通じず、wifi もつながらない、地図もわからない、スイスフラン通貨も持っていなかったのも市内バスも乗れません。まあ、でもこんな崖っぷち体験もこんなときぐらいしか体験できないし楽しもう！というなんとも楽観的な信念のもと、駅まで歩いていきました。さらに駅で迷っていると、何やら怪しい日本大好きおじさんに助けられ、ハグとキスをたくさん浴びせられ、なぜか夕食にも誘われましたが断って、無事モントリーユにつきました（スリとしか思っておらず、財布の心配しかしていませんでしたが、ただの良なおじさんだったようです）。さらに、モントリーユで予約したホテルは山の奥の頂上付近に位置しており、乗客2人の頼りないトロッコのような電車で、真っ暗闇の山の急斜面を登って行ったときもどうなることかと思いましたが、夜景が素晴らしかったです。本当に長い初日でした。

次の日もモントリーユ観光後ツェルマットへ急行というハードスケジュールでしたが、まだ一人旅を楽しんでいました。マッターホルンを拝んで、ベルンでアインシュタイン漬けの一日。ツェルマットはさすがにスキーの名所のため何もかも高いです。スイス内の交通費も高くつきます。フィンランドは物価が高い高いと言われがちですが、実はヨーロッパ全体で見るとそうでもないのでは…。ベルンはとてもかわいい町です、歩いて移動できる小規模な町ですが、長居したくなるような魅力があります。また、ツェルマットとベルンは日本人を見かけることがとても多かったです。フィンランドを恋しく思い始めたのはこのころから…2週間は私には長すぎたようです。

その後フランスの科尔マル、ルクセンブルグ、ベルギーのブリュッセルを旅しました。ルクセンブルグも小さな都市ですが、中心地全体が古城跡の上に成り立っていて、非常に面白い構造でした。ブリュッセルは治安があまり良好とは言えず、常に神経を使いました。ホームレスの方々も非常に多く、北駅に至っては彼らの住処になっているほどでした。中には小さな子供も多く、毎日非常に胸が痛む町散策でした。

旅行の最後はフィンランド、特にヨensuuが本当に恋しくてたまらず、飛行機に乗る日は珍しくアラームの前に飛び起きた程です。またもハプニング連続で家に帰るまでが本当に果てしなく感じましたが、フィンランドに着いたときの安堵感はとても大きかったです。もう財布と携帯を握りしめ続ける必要もない、英語も通じる、人に何か聞いても嫌な顔をされない…まるで一年ぶりに帰ってきたかのような感動でした…。

旅行ですが、私のように気ままに日程を決めたい方は、道中で booking.com などホテル

ルを直前予約しても全く問題ないと思います。私もベルン滞在を一日延長しました。ルートと飛行機を決めたら、あとは自由というのも楽しいですよ。

今回の旅も、ロシア編と同じく、フィンランドの居心地の良さと自分の日々の生活のありがたみを再発見する旅となりました。ヨエンスーでの時間を一分一秒、全力で生きたいと思えます。

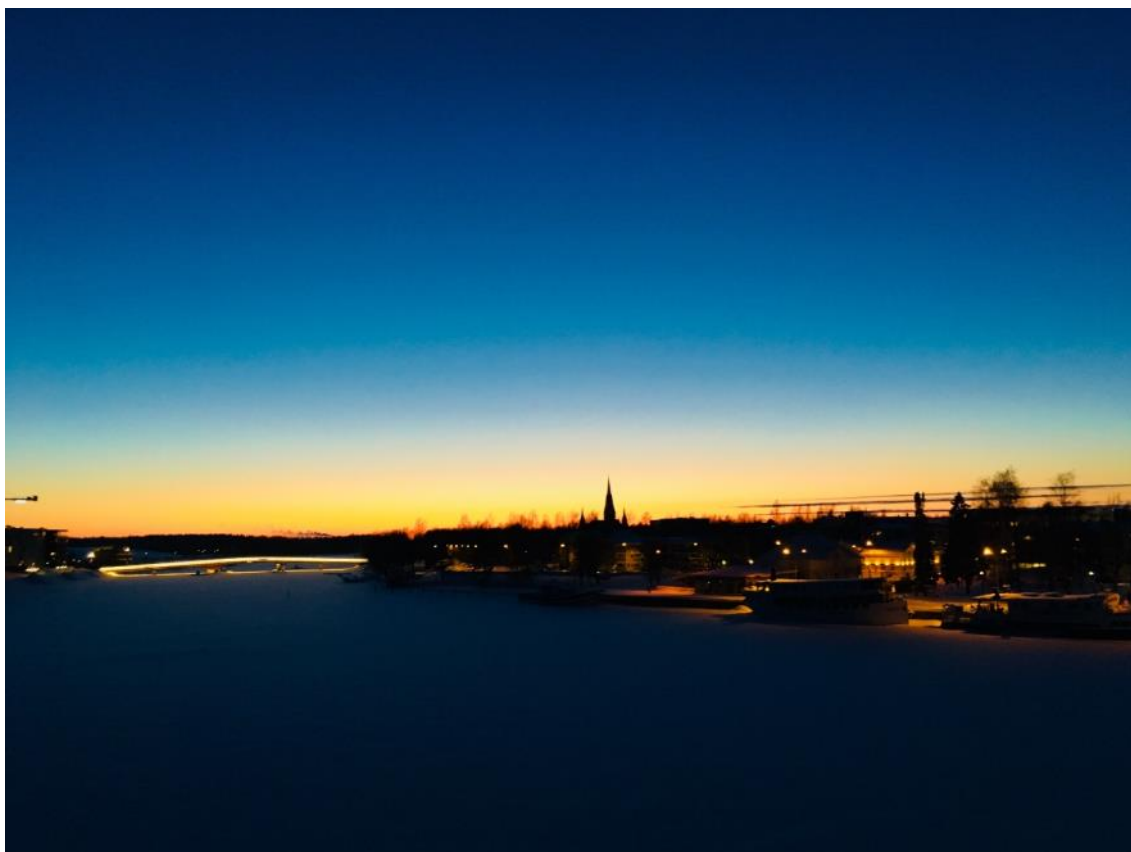
2. 勉学の状況



今月は Introduction to Forest protection in Finland の授業の excursion がありました。授業でも実物の標本を見ることができる機会がありましたが、やはり普段慣れ親しんでいる森林の中に実は潜んでいた木々の病気を発見するのは、授業の内容をより身近なものとして捉えることができる作業だと思います。およそ7時間の間、腰までの深雪の中を歩き回るのはつらかったですが、自分が最も経験したかった授業を受けることができ、感慨深かったです。

Approaches to Special Education in Finland の授業でも、大学に隣接する小学校にて observation がありました。こちらも本当に身に染みて勉強になった体験でした。先生にインタビューして聞いたお話も、自分が想定していたものとかけ離れ、まさに私にとって新しい概念でした。世界にはこうも異なる教育の方法/考え方があるのかと、本当に驚きを隠せませんでした。こちらの教育法は、学校のカリキュラムに子供を合わせるのではなく、子供一人ひとりに合わせ

て教育の形、周囲の環境・設備すら変える、子供の個性を重視する教育法なのです。また、テストをあまり重視しません。その代わり、生徒の日々の学習状況を先生が一人ひとりしっかりと把握し、それをもとに成績をつけるのです。学習は長く続くもの、その日だけの出来よりも、子供の日々の努力を誉めようというスタンスです。個人個人に時間を費やすため、黒板に書くという無駄な時間は極力減らす、そのためにテクノロジーも最大限に利用しています。生徒と先生との信頼関係を何よりも大事だととらえており、コミュニケーションの時間は惜しみません。そのため双方隠し事もなくなり、いじめの少なさにもつながっているのではないのでしょうか。他にもここに書ききれないほど衝撃を受けた概念がたくさんあります。偶然にも、Joensuu にフィンランドで最も最先端の小学校が最近設立されたそうなので、個人的に observation に行き、より考えを深めたいと思います。



(今月も変わらず絶景の Joensuu。一年で最も寒い月が終わろうとしています…)